

ペトロの手紙1 概要



著者：使徒ペトロ；シラスによって記述（5:12）

年代：およそ紀元 64-65 年ローマから（5:13；バビロンはローマのことを指している）

宛先：小アジア（現在のトルコ）の5つの地域に住む、主に異邦人の弟子たち（1:14, 18、2:9-10、4:3-4）。離散して仮住まいをしている者たちと表現されている。バプテスマと新しく生まれることについて、しばしば触れられていることから、信仰に入ってそれほど長くはない弟子たちに書かれたと言われている。これらの地域は、パウロが伝道を拒まれた地域である（使徒 16:6-10）。

状況：新しい弟子たちが各地域で、信仰による迫害や困難にぶつかっていた。

強調点：

- ・ 義のために困難があることは不思議ではない
- ・ 信仰者はキリストが通り過ぎたように、不義を通り過ぎなければいけない
- ・ キリストは私たちが罪から自由にするために受難した
- ・ 神の民はいつも、特に反対のあるときに、義に生きる必要がある
- ・ 私たちの将来の希望はキリストの復活の確証の元にある

読み進めるためのポイント

・「苦しみ」(suffering)

「苦しみ」はペトロの手紙1のキーワードの一つである。11回使われている。

この手紙ではイエスは苦しんだ者、またその苦しみを乗り越えた者として描かれている。

ペトロは「いろいろな試練」(1: 6)があると書いている。様々な局面に当てはめることはできるが、ここで言っている苦しみは恐らく迫害からくるものであると考えられる。

ペトロはイエスの苦しみについて5度触れている(2:23; 3:18; 4:1, 13; 5:1)。

苦しみは恵みによって対処すべきであると教え、苦しみにより恵みがキャラクターに加えられることを伝えている(5:12-13)。

・将来への焦点

ペトロはとても前向きな考えをもっている。将来にフォーカスしている。

しばしば、イエスが再び現れること及び私たちが受け継ぐ財産について触れている。

この将来への焦点は、弟子たちの試練が多い時期にも信仰を保てるようにする。

ペトロは来たる裁きについて、弟子たちにも覚えるよう強く勧めた(2:12, 3:16, 4: 4-5, 4:17-18)。

ノアの話は、神様の裁き及び報酬を待つことに必要な強いキャラクターの必要性を表している(3:18-22)。

・聖なる生活

来たる裁きのために、また弟子として受ける恵みのためにペトロはどう生きるべきかに焦点を置いた。

ペトロは弟子たちにこれから来る神の裁きを考慮し、聖なる生活を生きるように命じている。この聖が最もよく表れているのは 1:13-2:11 であり、肉の欲を避け愛の人生を目指すように書いてある。

ペトロは、個人的に聖なる者になるだけでなく、関係においても聖なる者となるように教えている。2-4 章では、権威者、教会内、信仰を持たない配偶者、クリスチャンでない人など、あらゆる関係において聖なる生活を送るために必要な実践的なことが書かれている。

ペトロにとって聖はただイエスを真似ると言う意味で重要なだけでなく、聖なる生活を送らない弟子に対する神の公正な裁きについて警告している (4:12、17)。

また、ペトロはキリストの体の中での聖なる生活についても述べている。彼は特に教会の調和と力を破壊する罪に対処しようとしている (4: 7-11、5: 1-7)。

・希望

希望はこの手紙の中に5回登場する。最悪の状況に対抗して喜び、燃え続けるためには希望は欠かせない(1:3, 13, 21; 3:5, 15)。希望によって、弟子として将来に楽しみがあり、状況が厳しい時にも確信を保ち続けることができる。

・キリストの体の中での人生

ペトロは私たちと神との関係は、キリストの体との関係に結びついていることを強調している(2:9-10)。「神の民」と言う私たちの新しい身分について語っている。

・地上の外国人(旅人)、天国の国民

ペトロは、弟子として私たちは地上では「外国人」であると何回も言っている。ペトロは神に反する文化の中で、いかにして聖なる生活を送ることが出来るか進言している：

1. 私たちは、周りの文化の中では、よそ者、外国人であると認識する。
2. 地上の文化の最も高い道德水準をも超えて生きること。
3. 文化から受ける批判の中でも、文句を言わず良い業を続けること。

・旧約聖書の引用

ペトロの手紙1には旧約聖書からの引用が多数含まれている。手紙の長さの割合を考慮した引用数としては、ローマ書より多く、ヘブライ書とほぼ同じくらいである。ペテロは明らかに旧約聖書に深く根付いていた。

・イエスの影響

ペトロに対するイエスの影響は、この手紙の表現にも表れている；以下一例として；

同じように、若い人たち、長老に従いなさい。皆互いに謙遜を身につけなさい。なぜなら、「神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる」 1ペトロ 5:5

食事の席から立ちあがって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。ヨハネ 13:4

「謙遜を身に付けなさい」とは直訳すると「奴隷のエプロンを身につけなさい」という
意味であり、ヨハネ 13章のイエスの姿を想像させるものである。